

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 自然・生活教育学系 教授

氏 名 佐藤 ゆかり

研究期間 令和5年度～令和6年度

研究プロジェクトの名称	大学の地域連携活動における学生の学びと、教員養成教育における意義の検討 ―雁木町家を活用した地域貢献事業〈ヨリ・ミチまちや〉活動を通して―
研究プロジェクトの概要	<p>現在「多様な個人と地域社会のウェルビーイングの実現」が示され、「国立の教員養成大学・学部ならではの地域課題に対応したコースやカリキュラム」の構築等が求められている。ここでの「地域課題に対応したカリキュラム等」の構築は教員就職率の向上や環境整備の必要性等を背景とするところが大きく、これを仮に「ハードな側面」に着目した「地域課題に対応したカリキュラム等」とするならば、個人や地域の生活を中心に据えた「ソフトな側面」からの地域課題や地域連携の検討も必要であろう。このような観点から、本プロジェクトメンバーは、個人や地域の生活を中心に据えた地域連携活動（活動名：〈ヨリ・ミチまちや〉を、大学の教員養成教育を意識しながら展開している。そこで、本研究は、全国からの入学生をもつ本学の学生が、上越のまちにでて、上越のまち「で／に」学ぶことが教員養成教育においてどのような役割をもつのかを検討することを目的として、個人や地域の生活を中心に据えた地域連携活動＝〈ヨリ・ミチまちや〉の経験から学生は何を得ているのか、その様相を明らかにする。</p>
研究 成 果 の 概 要	<p>研究代表者の佐藤と研究分担者の五十嵐・東原・藤井で雁木町家を会場として実施した〈ヨリ・ミチまちや〉に関わった学生を対象として、2023年度は活動で学生は何を学び、それが教育実習等の学びにどのようにいかされている／いないかに関する web 調査を 2023 年 12 月～2024 年 2 月に行った。結果、活動は参加者によって、楽しく、またやってみたいものとして評価された。学生は活動を先人の知恵や生活の文化を子どもが学習する大切な機会と捉えていた。また、活動は学生自身が生活について学ぶ機会でもあり、地域や生活の捉え直しの機会として位置付けていた等と解釈された。2024 年度は 2023 年度に卒業・修了し教員となった者を対象に活動の経験が教員としての教育実践にどのようにいかされているか／いないかについてのインタビュー調査を 2024 年 7 月にオンラインにて行なった。結果、地域連携活動は学校というフィルターをはずした子ども理解の場、教科と教科のつながりを考える場であり、そこで活動する皆がともに学ぶ・活動する関係の場であったと捉えられていた。そして、そこでの学びの一部は現在の教育実践にもいかされているものであった。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況 (※今後の予定も含む。)	<p>(一社)日本家政学会第 77 回大会(2024. 5. 24)「雁木町家を活用した地域連携活動にみる教員養成大学学生の学び」、日本教師教育学会 第 34 回研究大会(2024. 9. 22)「雁木町家を活用した地域連携活動から教員養成大学学生は何を得たのか」の報告他を行なった。なお、日本家政学会誌等に投稿予定である。</p>
学校現場や授業への研究 研究成果の還元について	<p>研究の成果を論文等として公表していくとともに、大学の授業及び教員研修等の機会において、その成果を還元していく。</p>